Grand Gendai

グランド現代百科事典

Grand Gendai

26

フラメ―ホウラ

学研

グランド現代百科事典

Grand Gendai

26

フラメ―ホウラ

1983年6月1日　改訂新版第1刷発行
1984年2月1日　改訂新版第2刷発行
全巻セット定価　218,000円

編集・発行人――鈴木泰二
発行所――株式会社**学習研究社**(学研)
東京都大田区上池台4-40-5 〒145
電話　東京(03)720-1111（大代表）
振替　東京8-142930
印刷――凸版印刷株式会社
表紙クロス――東洋クロス株式会社
ケース見返し用紙――富士共和製紙株式会社
本文用紙――三菱製紙株式会社
箔押――有限会社斎藤商会
製本――凸版製本株式会社
製函――高田紙器工業所

©GAKKEN　1983
＊本書内容の無断複写を禁ず

＊この本に関するお問合せ，製本上のミスなどがございましたら，下記あてにお願いいたします。
文書は　東京都大田区上池台4－40－5（〒145）
学研・ユーザーサービス部「グランド現代百科」係
電話は　東京（03）720－1111（大代表）

本書に掲載した地図は，建設省国土地理院発行の2万5千分の1地形図，20万分の1地勢図を使用して調製したものである。

Printed in Japan

161 276
ISBN4-05-150101-9

◆ 別刷目次

《巻頭口絵》●プレートテクトニクス
●フランス美術
《別　刷》●平安時代の美術……181
●ペルシア……301
●宝石……417

フランス美術の系譜

構成と文／信定宏郎

外国の美術といえば，われわれに最もなじみ深いのは，レオナルド＝ダ＝ビンチ，ミケランジェロの活躍したイタリア16世紀の美術と，ミレーや印象派を生んだフランス近代の美術であろう。しかし，フランス美術の流れは遠く中世にさかのぼることができるし，その源から今日に至る美術の流れには，他の国々によく見るような，空白の期間はないと言える。いろいろな起伏を伴いながらも，優れた作例に事欠かない連綿とした流れなのである。この国の美術が過去においてヨーロッパの主導権を握ったのは，ゴシック大聖堂を生んだ12～13世紀，繊細・華麗な工芸を生んだ18世紀，そして，われわれに親しい19世紀から20世紀前半の時期であったということは，確かに言えるだろう。しかし，その中間の時期においても，フランスは外来の影響を絶妙に吸収同化し，澄明で節度あるフランス的感性をかえって強く浮彫りにしている秀作を数多く残しているのである。

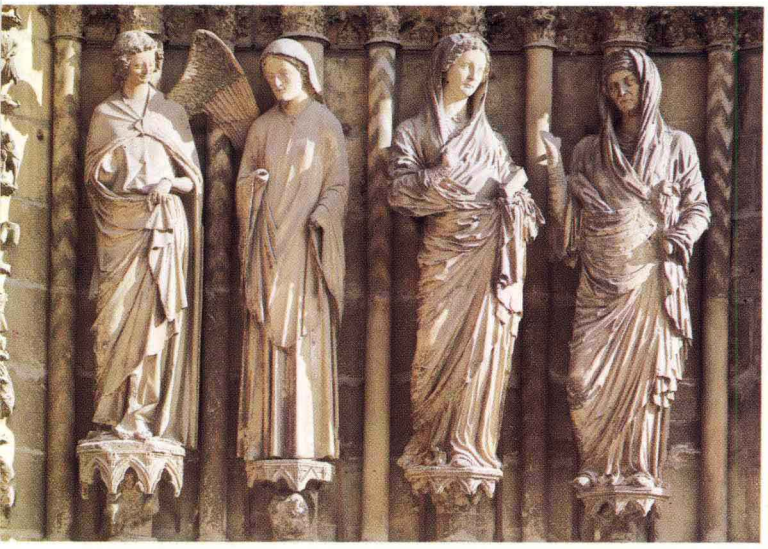
モワサック修道院　ロマネスク時代の修道院を母胎に，フランス美術が誕生する。柱頭の彫刻群は，形体の無限の変容の世界にわれわれを誘う。

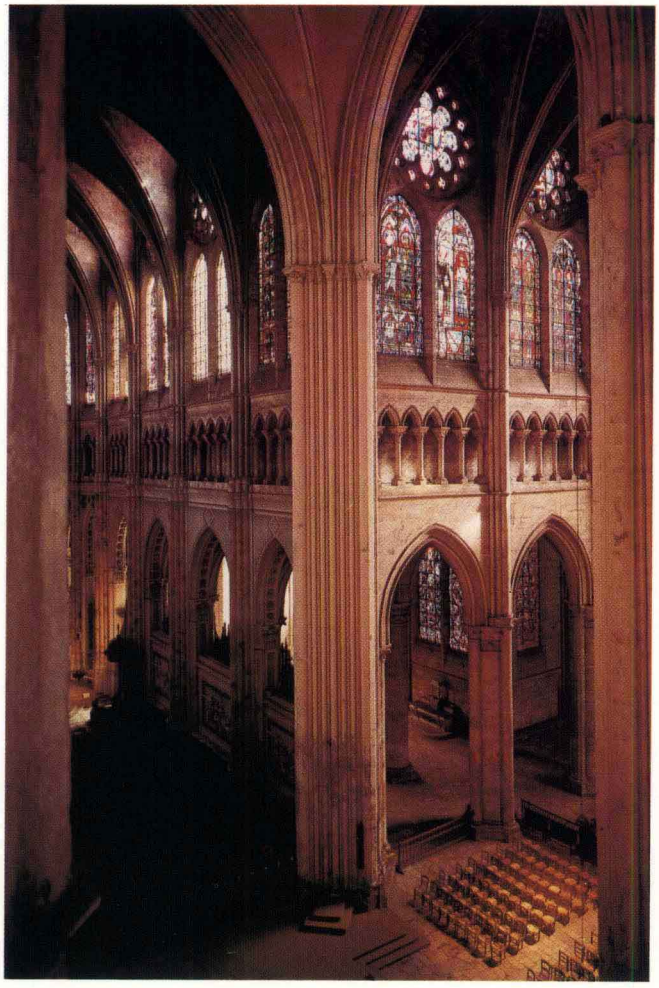
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

（下）　**ビルヌーブ＝レ＝ザビニヨンのピエタ**　作者不明　15世紀中ごろ　力強い写実的表現は，当時のフランドル絵画の影響である。しかし，背景描写の簡潔さと群像構成のおおらかな風格は，イタリア風でもある。ただ，画面を貫く抑制された悲嘆の表現には，何よりもフランス的特質が見られる。（パリ　ルーブル美術館蔵）

（左上）　**ランス大聖堂の受胎告知・聖母の訪問**　作者不明　1230年ごろ　ゴシック彫刻は，ロマネスク彫刻のように，壁面に密着して建築構造の視覚的強調の役を負わされることが少なくなる。丸彫りに近いこれらの彫刻は，人像に本来の比例を戻し，静かで人間的な美を復活させる。大聖堂の正面玄関わきを飾るこの彫刻は，中央から左右半分ずつで様式が異なり，別の作者の作品。

（左下）　**シャルトル大聖堂内部**　12～13世紀　ゴシック大聖堂では，キリスト教を肌で感覚的にとらえることができる。上方を指向する雄大な空間は，壁画に代わるステンドグラスの色光に染められる。特に，青と赤，青と金の組合せは，フランス絵画の伝統的配色で，最も高雅な美をたたえる。





中　世

簡潔なプロフィルと重厚な量感をもつ聖堂，その壁面や柱を飾るモニュメンタルな構成と激しいデフォルメを見せる彫刻群。11世紀のロマネスク様式の中に，フランス美術は誕生する。これに続くゴシックの大聖堂は，フランスが美術の歴史にもたらした最大の貢献であったと言える。ここでは，高遠な宗教理念が，完璧に建築の全構成と結び合っているのである。中世の末期には，壁画に代わって登場した板絵が，特に南仏アビニヨンを中心に見事な開花を見せる。

16世紀

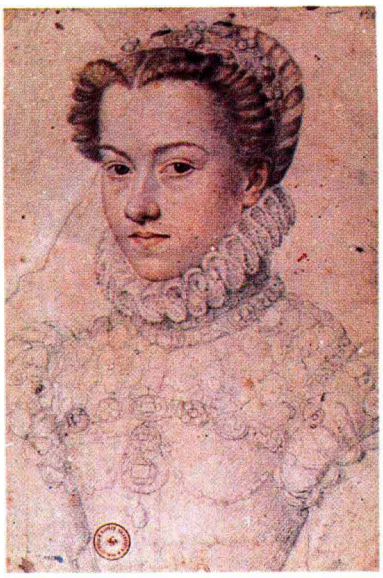
16世紀のフランス美術は，イタリアの影響下に置かれる。ゴシック建築を生み育てたフランスにとって，大きな転換期であった。この時期，歴代の王はイタリアへの軍事遠征によって，文化的にはかえってイタリア＝ルネサンス美術のとりこになって帰国した。フランソワ１世は，著名な美術家をイタリアから招き，フォンテンブロー宮の造営を委嘱している。この宮殿のイタリア風装飾が，フォンテンブロー派の美術を生む母胎となる。ロワール川流域の景勝地に建てられた王侯の城館（シャトー）も，イタリアのルネサンス建築の様式を巧みにとり入れている。

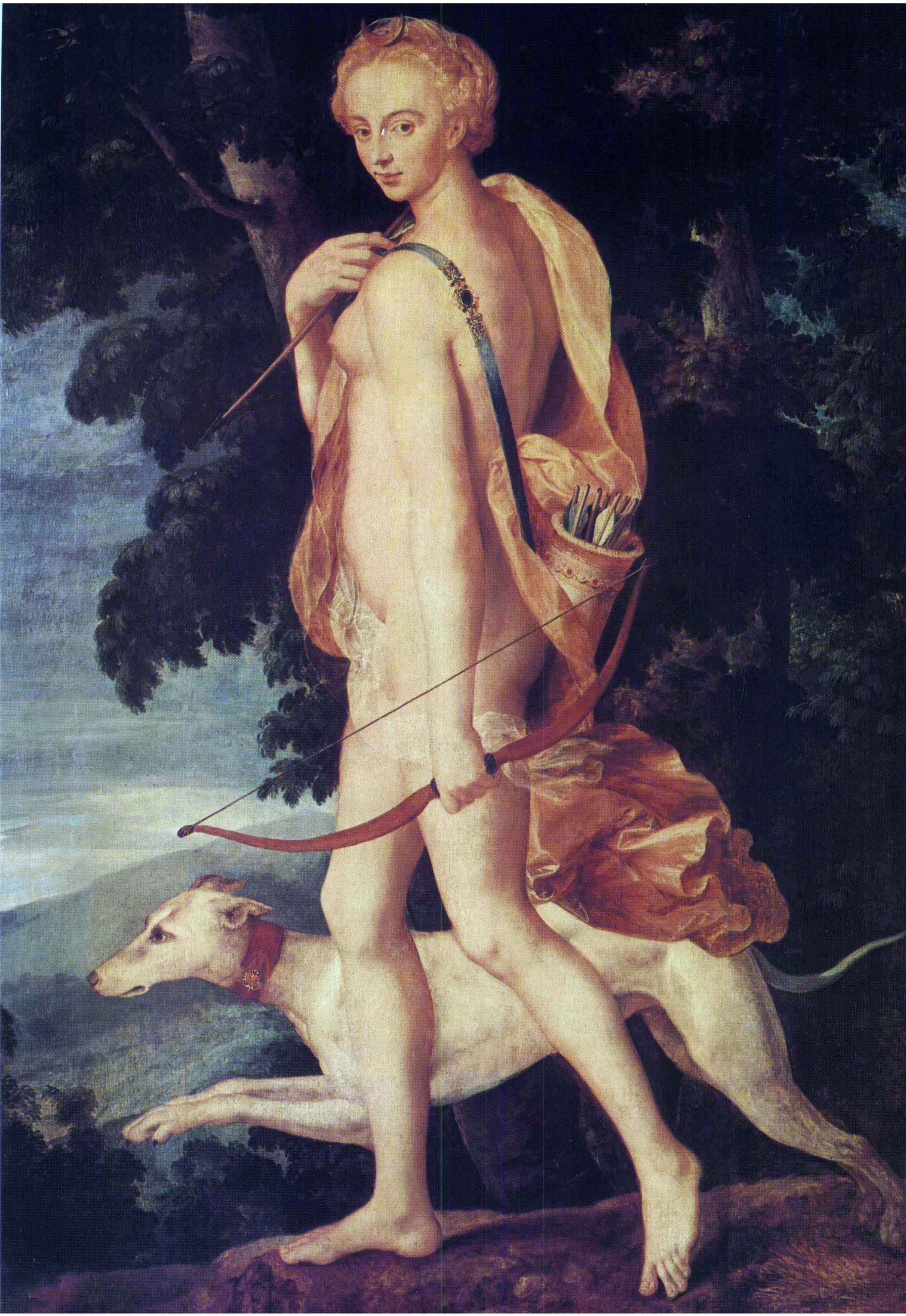
写真／サンセット・フォト

（右）**エリザベート＝ドートリッシュ**　フランソワ＝クルーエ作　16世紀後半　フランドル風の写実を見せるこの作には，同じような油彩作もある。しかし，このデッサンは下描きではなく完成作として仕上げられ，フランス的趣向が見える。（パリ国立図書館蔵）

（下）**シュノンソーの城館**　フィリベール＝ドロルム作　1556～59年　壁体はイタリアのパラッツォ（富豪の館）を範としているが，屋根・明り窓・塔はフランス在来のもの。ロワール川支流シェール川にかかる橋脚を利用し，パラッツォと異なる優雅な詩情をたたえる。

（左）**狩人ディアナ**　フォンテンブロー派　1550～60年　細長く秀麗な裸身は，イタリア＝マニエリスム絵画の流れをくむが，イタリア風の饒舌な表現はなく，色調も抑えられている。これは，典雅な官能美を奏でる宮廷絵画である。（パリ　ルーブル美術館蔵）

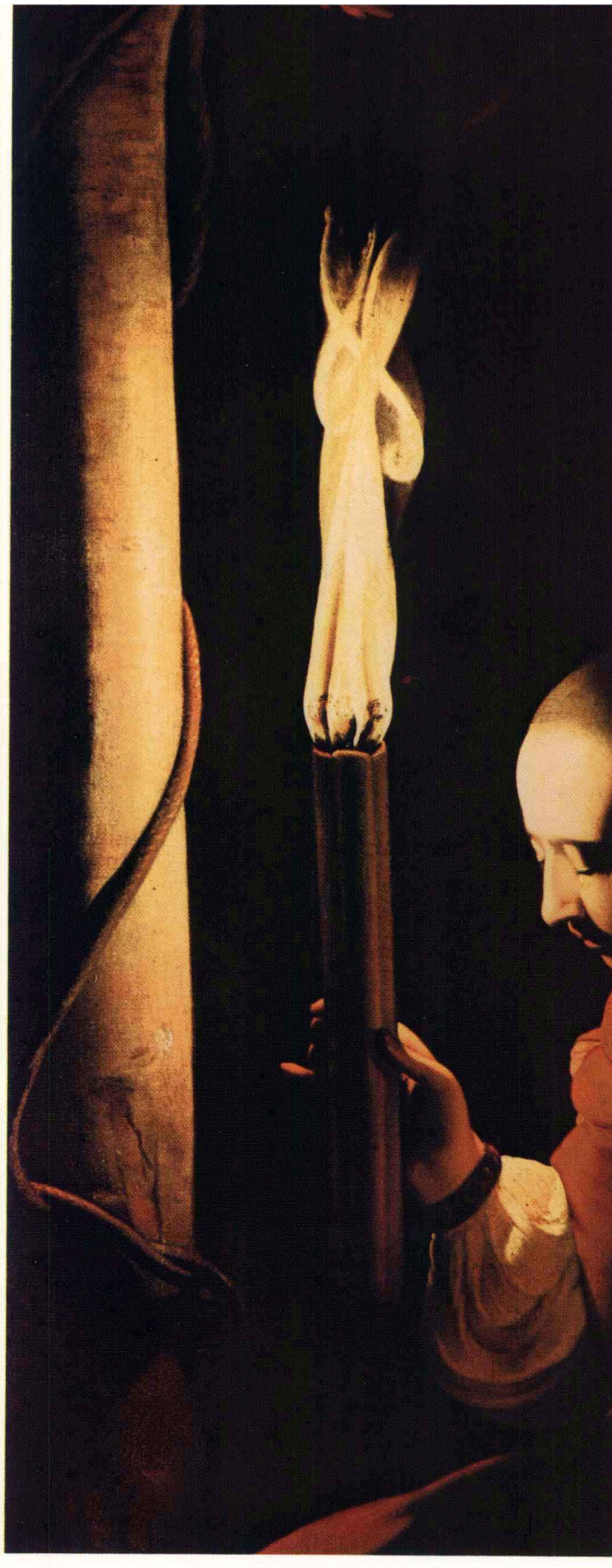




（上） **聖セバスチアヌスの死を悼む聖イレーヌ**　ジョルジュ＝ド＝ラ＝トゥール作　1634～43年　ラ＝トゥールは，イタリアバロックのカラバッジョの作風に学び，これを全くフランス風に転化させた。カラバッジョの強い明暗法と大きなゼスチュアは，ここでは静かな夜と瞑想の世界に変容する。（西ベルリン　国立美術館蔵）

（左上） **アポロンとダフネ**　部分　ニコラ＝プーサン作　1664年　彼は永くローマに在住してイタリア美術に親しみ，入念な考証と理論をもとに，堂々とした構成をもつ歴史画を制作した。故国フランスでは彼の作を高く評価し，古典主義絵画形成の重要な礎石とした。これは，彼の最晩年の未完の作である。（パリ　ルーブル美術館蔵）

（左下） **ベルサイユ宮殿ルイ14世の間**　ジュール＝アルドゥアン＝マンサール他作　1678～88年　この宮殿は，ルイ14世の絶対権力の視覚的象徴である。絵画彫刻アカデミーの初代総裁となり，古典主義を推進したシャルル＝ル＝ブランが室内装飾の采配をふるった。壁面のゴブラン織のタピスリーは，ル＝ブランの下絵による。



17世紀

17世紀は，フランス画派誕生の時代と言われるように，優れた力量の画家を輩出する。当時イタリアは，動感に満ちたバロック様式の美術を展開し，影響を全ヨーロッパに及ぼしていたが，フランスのエスプリはバロックにあまり好意を示さず，公的美術はルネサンスの精神を重んじ，バロックと反対の傾向をとった。これは，古典主義と呼ばれ，ベルサイユ宮殿はその集大成である。古典主義は冷たいアカデミズムに硬化していったが，世紀の末これに対する反動が厳しい教条を緩め，次の時代の美術を用意する。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

18世紀

18世紀の美術を特色づけるのは，ロココ様式の誕生である。ルイ14世没後の爛熟(らんじゅく)した貴族社会の文化を背景に生まれたこの様式は，前代の理念的な古典主義への反動でもあった。明るく洗練された色彩が，絵画のみならず，工芸にも生かされる。優雅に屈曲する線を形体原理としたロココ工芸は，広くヨーロッパ諸国に影響を与え，フランスを再びヨーロッパ美術の中心にすえた。しかし，世紀後半，ロココ美術は新古典主義にその座を譲る。

（右） **ジル**　アントワーヌ＝ワトー作　1719年　雅宴画の創始者ワトーほど，ロココの心の深みに触れた画家はいない。道化の衣装を着た友人の表情と姿態には，悦楽の世界の底に潜む哀切感がにじむ。

（パリ　ルーブル美術館蔵）

（下） **絵皿**　部分　作者不明　1768年　セーブル窯　ロココ様式に最も適合しているのは，陶磁器であろう。陶磁器はこの時代，洗練を極め，趣向の限りを尽くした作品が生まれている。恋の語らいの図柄は，この時代の大家フランソワ＝ブーシェの画をもとにしたもの。

（ロンドン　ビクトリア＝アンド＝アルバート美術館蔵）

（左） **追憶**　オノレ＝フラゴナール作　1770年以降　美術は何よりも目を楽しませるものというロココ時代の要請に完璧(かんぺき)にこたえたのは，フラゴナールをおいてほかにいない。練達した奔放な筆致で女性と恋愛を描き，ロココの終末を飾った。

（ロンドン　ウォレス＝コレクション蔵）

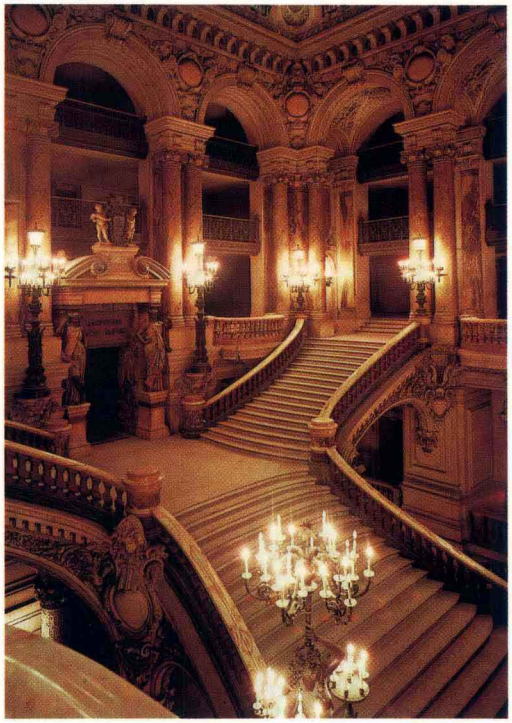
EUG. DELACROIX

19世紀

19世紀の美術は，前代までのような大きい時代様式に統一することはできない。フランス絵画は，この時代，多くの逸材を擁してヨーロッパの主導権をとったが，その発展は，相対立する主義が次々に交替するという形をとる。これは他のヨーロッパ諸国に見られない明快な論理的発展であった。この発展を通して、美術は物語や記録の役割から解放され，それ自身で充足する純粋芸術の方向に向かうことになる。20世紀の発展は，19世紀の中に用意されていた。

（右） **アルジェの女たち** ユジェーヌ＝ドラクロワ作 1834年 このロマン主義の巨匠は絵画の主要問題は形の描写よりも色彩にあるとして，深い感情の表現を豊かな色彩に託した。オリエントの色彩的な世界は，彼の好個の素材であった。（パリ ルーブル美術館蔵）

（下） **パリオペラ座内部の階段室** シャルル＝ガルニエ作 1861～75年 19世紀の建築は，近代のスタイルを見つけるまでに，半世紀以上も過去の様式の中をさまよい続けた。オペラ座は，この歴史主義の総決算とも言うべき建築である。



（右）**カテドラル**　オーギュスト＝ロダン作　1908年ごろ　ロダンとともに始まった近代彫刻も，絵画の発展と方向を同じくする。彼自身も，純粋な造形を彫刻本来の課題とし，これは，彼の作品の中でも最も簡潔な形体を示す作。（フィラデルフィア　ロダン美術館蔵）

（下）**フォリー＝ベルジェールの酒場**　エドワール＝マネ作　1882年　マネは，近代絵画の強力な推進者である。コントラストを生かした鮮やかな色調，画中人物の心理描写の回避などは，絵画の造形面を強く意識した表現である。（ロンドン　コートールド研究所蔵）

（左）**ポーズする女**　ジョルジュ＝スーラ作　1886年　スーラは，この世紀で最も理論的な絵画を制作した。彼の点描と構図理論は，方法論を超えて表現内容と一体になり，抽象絵画を予感させる。（パリ　印象派美術館蔵）

写真／サンセット・フォト